

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第31週（8月1日～8月7日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症の減少づく」

第31週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,933例であり、前週比11.7%減であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.97、2.24、0.66、0.25、0.24である。

RSウイルス感染症は前週比7%減の1,171例で、大阪市北部11.07、泉州8.37、堺市7.84、北河内6.92、大阪府南部6.28であった。

感染性胃腸炎は22%減の440例で、南河内4.88、中河内4.50、堺市2.26である。

手足口病は3%減の129例で、中河内1.10、南河内0.75、堺市・泉州0.74であった。

突発性発しんは26%増の49例で、中河内・南河内0.50、大阪府西部0.40である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6%減の48例で、中河内0.85、堺市0.37、三島0.29であった。

インフルエンザは63%減の21例で、定点あたり報告数は0.07である。中河内0.19、南河内・泉州0.13であった。

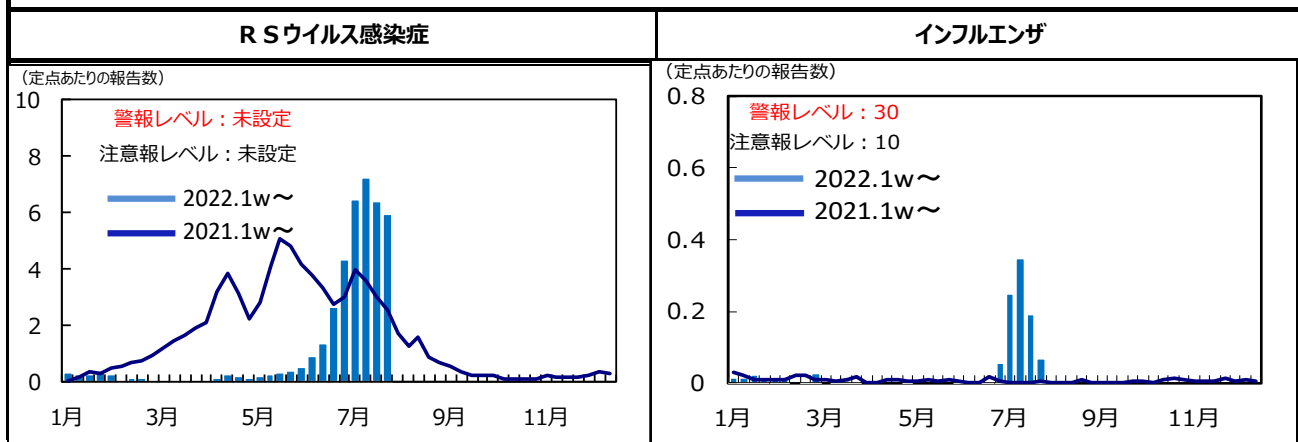


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第31週8月1日～8月7日）

第31週の順位	第30週の順位	感染症	2022年 第31週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第31週の 定点あたり 報告数	2022年第31週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	5.97	7%減	2.46	1歳_33%
2	2	感染性胃腸炎	2.24	22%減	2.72	1歳_25%
3	3	手足口病	0.66	3%減	0.05	1歳_39%
4	8	突発性発しん	0.25	26%増	0.33	1歳_57%
5	6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.24	6%減	0.34	4歳_23%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第31週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

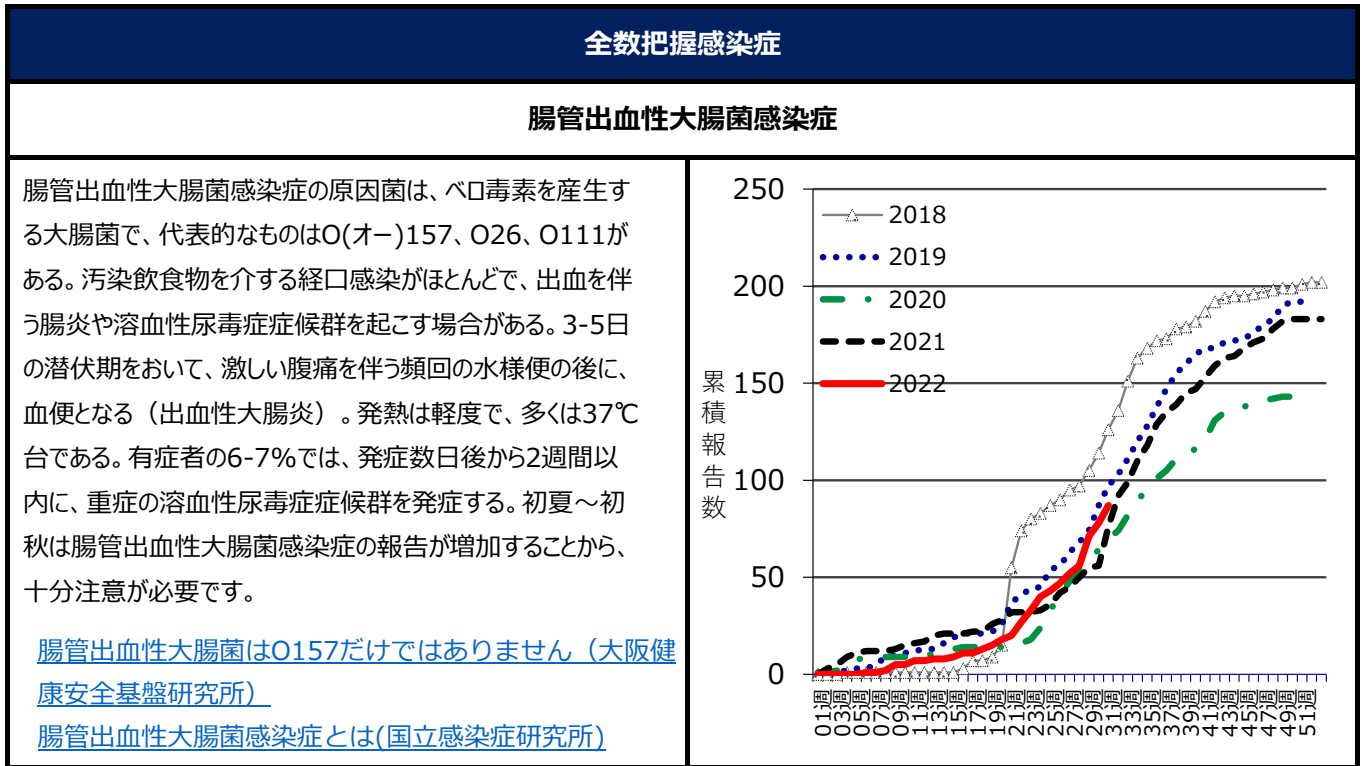


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第31週8月1日～8月7日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別								府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9					1		2	6	87
4類感染症	A型肝炎	1				1					4
	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	56
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1	70
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		1						1	22
	後天性免疫不全症候群	2								2	59
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		2			1			1	56
	梅毒	13					1	2		10	913
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	140,002	2020年1月以降累計 1,511,133								
結核 (2022年6月分)	結核 新登録患者数：81名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 528名、内 肺・喀痰塗抹陽性 194名)										

(2022年8月9日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)